

# 相対性理論入門 2

## Minkowski 空間

Lorentz 変換より，座標の差について次の式が成立する．

$$c^2 (dt)^2 - (dx)^2 - (dy)^2 - (dz)^2 = c^2 (dt')^2 - (dx')^2 - (dy')^2 - (dz')^2$$

すなわち，

$$(ds)^2 = c^2 (dt)^2 - (dx)^2 - (dy)^2 - (dz)^2 \quad (1)$$

は Lorentz 変換に対して不変なもの（Lorentz 不変）である．2 点間の距離の 2 乗を Lorentz 不変な  $(ds)^2$  とするような空間が Minkowski 空間である．これは分かりにくいかもしれないが，三次元座標に時間軸を加えただけの Euclid 空間での 2 点間の距離の 2 乗は  $(ds)^2 = c^2 (dt)^2 + (dx)^2 + (dy)^2 + (dz)^2$  であり，これは Lorentz 不変ではないことを考えると，Minkowski 空間の特殊性が理解できる．

Minkowski 空間のベクトル  $\mathbf{V}$  を

$$\mathbf{V} = e_0 ct + e_1 x + e_2 y + e_3 z \quad (2)$$

と表示するような基底ベクトルの組  $\{e_0, e_1, e_2, e_3\}$  は

$$e_0 \cdot e_0 = -e_1 \cdot e_1 = -e_2 \cdot e_2 = -e_3 \cdot e_3 = 1 \quad (3)$$

の関係を満たす．これにより，ベクトル  $d\mathbf{V} = e_0 c dt + e_1 dx + e_2 dy + e_3 dz$  のノルムは式 (1) のようになり，Minkowski 空間の条件を満たしていることがわかる．

物体の運動は Minkowski 空間の中の線分で表される．これを世界線という．世界線の距離は式 (1) と同じ式になる．

$$(d\tau)^2 \equiv c^2 (dt)^2 - (dx)^2 - (dy)^2 - (dz)^2 \quad (4)$$

両辺を  $(dt)^2$  で割って,

$$\begin{aligned} \left(\frac{d\tau}{dt}\right)^2 &= c^2 - \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 - \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 - \left(\frac{dz}{dt}\right)^2 \\ &= c^2 - v^2 \end{aligned} \quad (5)$$

これより,

$$\frac{d\tau}{dt} = \frac{c}{\gamma} \quad (6)$$

が導かれる。世界線の上を移動する、すなわち物体と共に移動する座標系では  $\gamma = 1$  となるため,

$$d\tau = cdt \quad (7)$$

である。したがって、 $\tau$  は運動する物体の固有の時間と考えられるので、“固有時”と呼ばれる。

$(x', y', z', t')$  の座標系の基底ベクトルの組を  $\{e'_0, e'_1, e'_2, e'_3\}$  とすると、ある事象点を 2 つの座標系で表すことにより,

$$e_0 ct + e_1 x + e_2 y + e_3 z = e'_0 ct' + e'_1 x' + e'_2 y' + e'_3 z'$$

Lorentz 変換の逆変換を使って書き換えると,

$$e_0 c \gamma_c \left(t' + \frac{w}{c^2} x'\right) + e_1 \gamma_c (x' + wt') + e_2 y' + e_3 z' = e'_0 ct' + e'_1 x' + e'_2 y' + e'_3 z'$$

整理して,

$$\gamma_c \left(e_0 + e_1 \frac{w}{c}\right) ct' + \gamma_c \left(e_0 \frac{w}{c} + e_1\right) x' + e_2 y' + e_3 z' = e'_0 ct' + e'_1 x' + e'_2 y' + e'_3 z'$$

これが任意の  $(x', y', z', t')$  について成り立つので,

$$e'_0 = \gamma_c \left(e_0 + e_1 \frac{w}{c}\right) \quad (8)$$

$$e'_1 = \gamma_c \left(e_0 \frac{w}{c} + e_1\right) \quad (9)$$

$$e'_2 = e_2 \quad (10)$$

$$e'_3 = e_3 \quad (11)$$

$e'_0 \cdot e'_1 = 0$  であることは容易に示される。また,

$$e'_0 \cdot e'_0 = \gamma_c^2 \left(e_0 \cdot e_0 + e_1 \cdot e_1 \frac{w^2}{c^2}\right)$$

$$\begin{aligned}
&= \gamma_c^2 \left( 1 - \frac{w^2}{c^2} \right) \\
&= 1
\end{aligned} \tag{12}$$

および

$$\begin{aligned}
\mathbf{e}'_1 \cdot \mathbf{e}'_1 &= \gamma_c^2 \left( \mathbf{e}_0 \cdot \mathbf{e}_0 \frac{w^2}{c^2} + \mathbf{e}_1 \cdot \mathbf{e}_1 \right) \\
&= \gamma_c^2 \left( \frac{w^2}{c^2} - 1 \right) \\
&= -1
\end{aligned} \tag{13}$$

となり、基底ベクトルの組  $\{\mathbf{e}'_0, \mathbf{e}'_1, \mathbf{e}'_2, \mathbf{e}'_3\}$  も式 (3) と同様の正規直交系であることがわかる。  $\mathbf{e}_0, \mathbf{e}_1$  の方向に  $ct, x$  軸を、また  $\mathbf{e}'_0, \mathbf{e}'_1$  の方向に  $ct', x'$  軸を取ると図 1 のようになる。  $ct'$  軸は

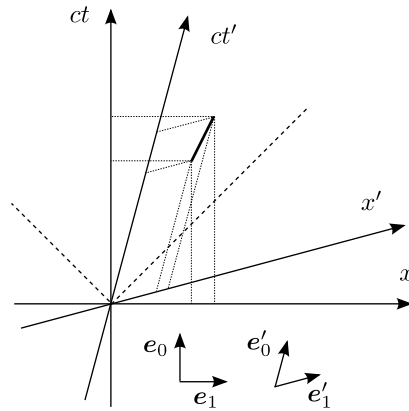


図 1: Minkowski 空間の  $ct, x$  軸および  $ct', x'$  軸

$(x', y', z', t')$  の座標系が  $(x, y, z, t)$  の座標系に対して  $x$  軸方向に  $w$  の速度で進んでいる。  $y$  軸と  $y'$  軸、  $z$  軸と  $z'$  軸は一致し、いずれも  $ct, x$  軸および  $ct', x'$  軸と直交する。点線は光の世界線。太い実線はある物体の世界線を表しており、それから各軸への射影を点線で示す。

$\theta = \tan^{-1}(w/c)$  だけ  $ct$  軸から右回りに、また  $x'$  軸は  $\theta = \tan^{-1}(w/c)$  だけ  $x$  軸から左回りに回転している。図 1 に示したある物体の世界線のこの図の中での距離や  $ct$  成分 ( $ct'$  成分) および  $x$  成分 ( $x'$  成分) は 2 つの座標系で異なる。しかし、この世界線の両端の座標を使って式 (1) によって計算した距離は同じになる。すなわち固有時の間隔は不変である。

## Minkowski 空間における衝突の表現

この Minkowski 空間の中で“相対性理論入門 1”の衝突の問題を考えよう (図 2)。物体 A, B の動きは図 2 の世界線 A, B で示される。これを  $(x, y, t)$  の座標系から見ると、等しい空間距離と等しい時間距離を動いて衝突する。これは  $yct$  平面への射影 (図には表示していないが自明であろう) に

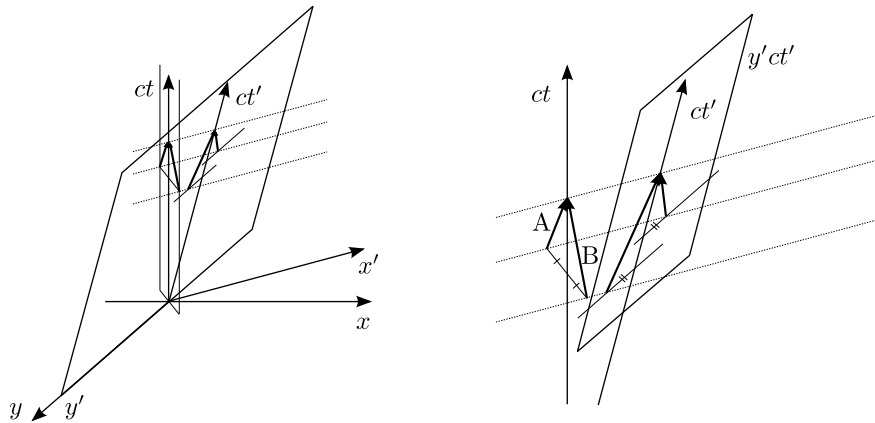


図 2: Minkowski 空間での衝突の表示

左に  $(x, y, t)$  の座標系と  $(x', y', t')$  の座標系を重ねて書いている。物体 A は  $xy$  平面の第 3 象限に発し、物体 B は第 1 象限に発し、いずれも原点に向かい、原点で衝突する。その世界線 (A, B) と、それらを  $x'$  軸に沿って  $y't'$  平面に射影したものを示す。右は世界線の部分を拡大したものの。

よって  $y$  軸方向の動きを考えても同じである。一方、 $(x', y', t')$  の座標系から見ると、 $y'ct'$  平面への射影によって  $y'$  軸方向の動きを考えると、物体 A, B は  $y'$  軸方向に同じ距離を動くが、物体 B の方が物体 A よりも長い時間をかけていることがわかる。したがって、 $y'$  軸方向の動きの速さは B の方が遅く、 $y$  軸 ( $y'$  軸) 方向の非相対論的運動量の和が 0 にならないことがわかる。そこで、 $y$  軸 ( $y'$  軸) 方向の運動量を 0 にするためには、Lorentz 不変量であり、非相対論的極限で  $ct$  と一致する固有時  $\tau$  を  $t$  ( $t'$ ) の代わりに使えばよいことがわかる。したがって、相対論的運動量は質点の座標を  $\mathbf{r}$  として

$$\begin{aligned}
 \mathbf{p} &= cm \frac{d\mathbf{r}}{d\tau} \\
 &= cm \frac{d\mathbf{r}}{dt} \frac{dt}{d\tau} \\
 &= \gamma m \frac{d\mathbf{r}}{dt} \\
 &= \gamma m \mathbf{v}
 \end{aligned} \tag{14}$$

となる。

(2014 年 8 月 24 日作成)